

重点11 教職員研修の充実

1A 教職員の資質向上(小・中学校)

ねらい

様々な教育課題が山積する現在、教職員の資質向上が強く求められています。そのような中、自己変革をめざし、学び続ける教師、子どもを育てる厳しさをもつ教師、子どもに寄り添い、よさや可能性をのばす教師、絶えず授業改善にはげむ教師が、今も求められる教師の姿と言えます。

そのために、教師としての教科等の専門的知識を高めるとともに、広く豊かな教養を身につけるため、幅広い観点から研修を進めています。

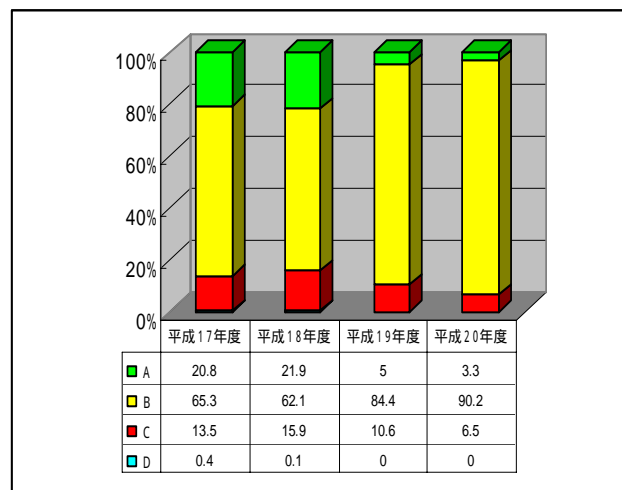
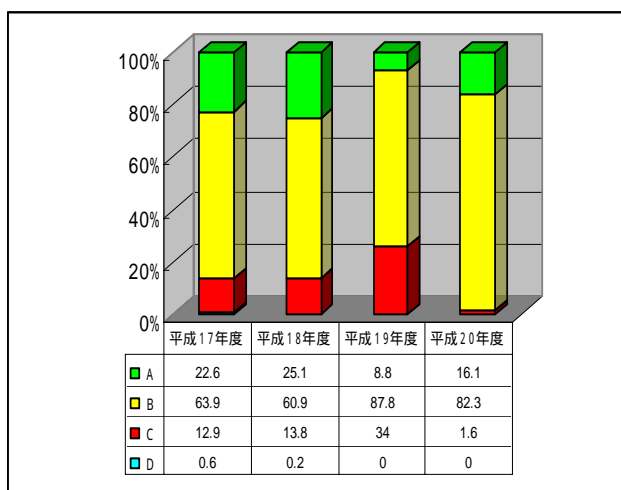
現状と課題

自校の研修に関する各学校の反省

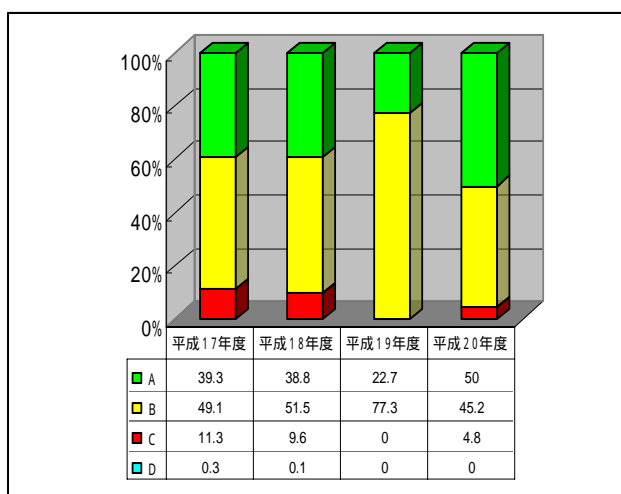
<市全体：平成20年度>

Q 計画的・継続的な研修が実施できたか

Q 研修の工夫・改善がされたか



Q 教育力向上のための授業公開の推進はできたか



・ 各学校の反省からは、「十分」「おおむね十分」とする回答がほぼ90%以上となっていますが、本市の全国学力・学習状況調査の結果(P.4~6)や生徒指導上の課題(P.52~53)から考えると、教員の資質向上に係る校内研修について自校の「強み」と「弱み」をより一層明確にして取り組む必要があります。

・ 平成21年度からは、新学習指導要領の移行期間となることから、各教員にその趣旨を浸透させていくことが、今後の重要な校内研修の課題といえます。

【 「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分 】

今後の改善方針

校内研修の改善・充実

校内研修を学校経営の重要な核として位置付け、自校の課題の解決を目指すとともに、教師の資質・指導力の向上を、以下のように図ります。

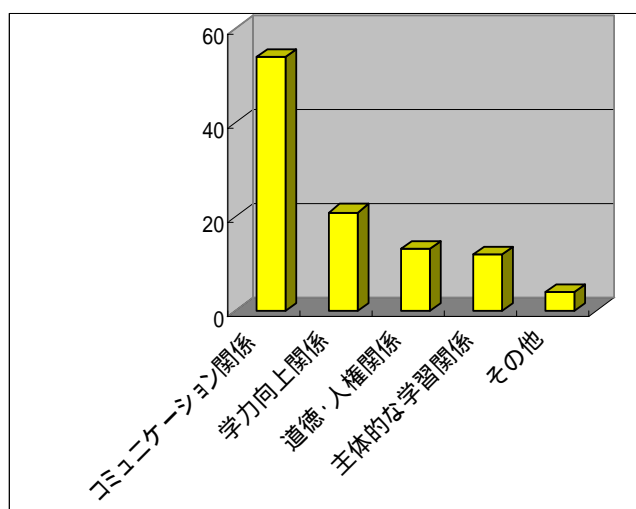
- ・ 校内研修におけるP D C Aサイクルの確立
 - ・ 組織的・計画的な研修の実施
 - ・ 教育力向上のため授業公開の推進
 - ・ 教職員がそれぞれの実践に校内研修を生かす
- 教育センター等の外部研修会への積極的参加を啓発します。
- ・ 職務や教職経験に応じた研修へ積極的に参加
 - ・ 自己の課題や問題意識に基づき、主体的に研究会や研修会に参加
 - ・ 三泗教育研究協議会の研究会への参加
 - ・ 市や県の教育委員会が主催する研修会等への計画的な参加
 - ・ 学校づくりビジョン推進のため、積極的かつ計画的に外部の研究会等へ参加
- 学習指導要領の改訂を踏まえ、完全実施（小学校平成23年度，中学校平成24年度）にむけて、移行期間にその内容の定着を図っていきます。

その他の主な取組状況

校内研修の主な内容

- ・ 「コミュニケーション関係」には、コミュニケーション能力の育成のほか、子ども同士の学び合いや表現力などの育成に関する主題を含んでいます。
- ・ 「学力向上関係」には、確かな学力や基礎学力の定着などの主題が含まれています。
- ・ 「道徳・人権関係」には、道徳教育、人権教育のほか、仲間づくりなどの主題が含まれています。
- ・ 「主体的な学習関係」には、子どもたちの主体的な学習の育成ほか、課題解決的な学習や評価などに関する研修主題が含まれています。
- ・ 「その他」は、特別支援や運動などの主題をまとめたものです。

< 各小中学校の研修主題の類型（延べ校数） >



校内研修の傾向等

- ・ 実践的な研究を大切に、各教科や道徳や総合的な学習の時間などの授業公開を中心に取り組まれています。
- ・ 上のグラフからもわかるように、コミュニケーション力の育成を目指した指導法等の工夫に取り組む学校が多くなっています。
- ・ 平成19年度から実施されている全国学力・学習状況調査の結果分析については、各小中学校が自校の分析を行い、授業改善に努めています。
- ・ 学びの一体化の取り組みの一つとして、中学校区の幼稚園や小学校に授業を公開し、事後研

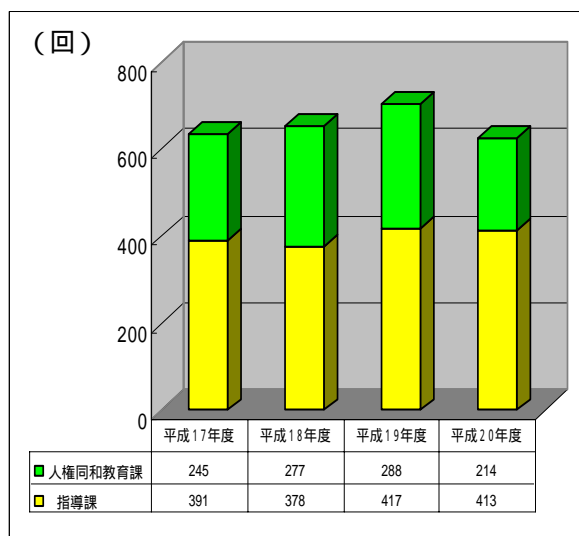
第4章 教育活動を支えるもの

修会を行う学校も増えています。

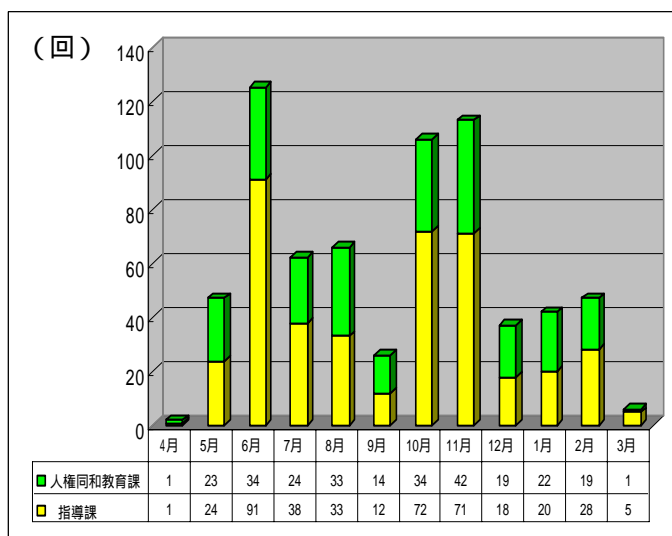
- ・ 四日市市教育委員会と三重大学教育学部との間に協定が結ばれたことにより、平成19年度から、三重大学の教官を校内研修の助言者として招聘する機会が増えています。
- ・ 研修の教科や領域については、中学校では、ほとんどが全教科・領域として取り組んでいます。小学校では、国語・算数・体育などを中心に取り組む学校が全体の約50%を占めています。

校内研修への指導主事の参加回数

<参加回数の推移>

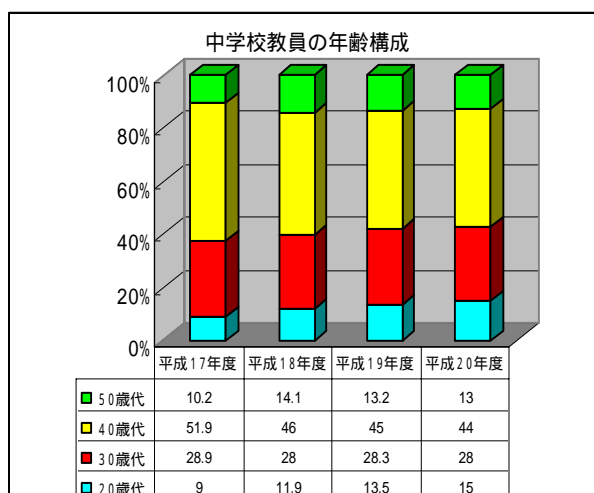
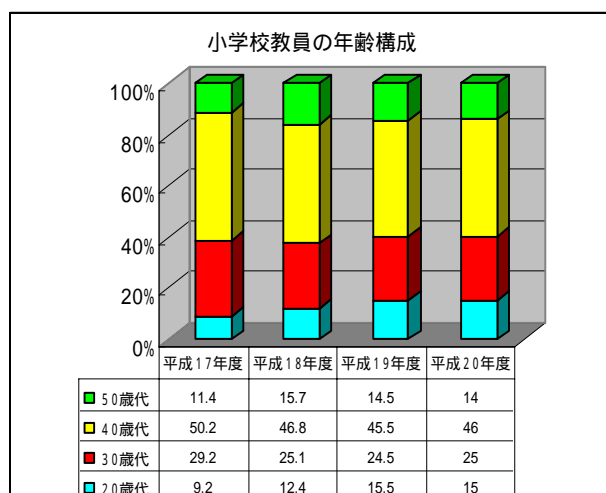


<平成20年度月間参加回数の推移>



- ・ 指導主事等は、授業研究会や講演会などへの助言や指導のために、各校から要請を受け、訪問しています。研修会では、基礎学力の充実や人権教育の推進、日常的な授業改善への工夫など、各校の研究テーマに応じた協議が行われています。
- ・ 特に最近では、小・中学校ともコミュニケーション能力の育成や仲間づくりに関する研修課題が増加していること、生徒指導上の課題が増加していることから、Q-U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）に関する研修を取り入れている学校が増えています。

教員（教諭）の年齢別構成割合



- ・ 今後、数年間の傾向としては、20歳代及び50歳代の増加が予想されることから、これまでに見られた年齢構成の偏りが徐々に是正されていく見込みです。